

課題発見ゼミナール 樋口クラス希望者：42名

私が第1希望とするのは樋口クラス「身近なグローバル化」です。理由としてはまず、今まで総合科学の基礎H(社会学の基礎)を受けてきて樋口先生の授業は面白く、社会学を学びたいと思うようになったからです。それに加えて、私は地方創生について学びたいと考えているので、地元徳島にあるグローバル化しているものを見つけて実感するというこのクラスは、今後の勉学にも活かせるものであるように見受けられました。クラスの体勢として賢い人を育成するのではなく、変な人を増やすというようなものがあるというのも、とても興味深く感じられ、自分の勉学への姿勢にも近いものをおぼえました。これらの理由から私は樋口クラス「身近なグローバル化」を希望します。

自分の興味のあることであるし、担当教員が社会学の先生であるからです。私は将来の夢やどんな感じの職業に就きたいか決まっていなんですけど、今のところ社会学に一番関心があります。山口先生は、先日の授業で「短所をなくしたほうがいい」という感じのことを言っていましたが、私は大学は自分の長所や興味のあることを極めていく場所だと考えています。なので自分の目指すべき職業を見つけるためにも、興味のあるものを選ぶべきだということで、樋口先生の社会学が第一希望です。

グローバル化が急激に進展する社会の中で人の移動に目が行きがちだが、このクラスではものの動きについても取り上げると言うことで、人が集まる所に物が集まるのか物が集まる所に人が集まるのか定かではないが、グローバル社会のをより正確な視点でとらえるため、また自信が将来的に国際社会で闘っていくための第一歩にするためにこの授業を受ける必要がある。そして人口縮小社会では地方が最先端であると何度も授業で紹介されたので、実際にそれを肌で感じるために地方を舞台にグローバル化を学びたい。

このクラスは、移民、食、衣服などのテーマから身近なグローバル化について考えるものである。現在、急速にグローバル化が進み、街でも外国人とすれ違うことが多くなり、

外国人との共生が避けられない時代にいる。しかし、それに伴い、外国人の労働問題や地域での居住問題などの差別問題も起きている。それでは外国人と共生しているとは言えない。外国人が日本に来てどのように暮らしているのか、また、外国人のおかげで私たちの生活がどれだけ有意義になっているのかを知ることで、より外国人を身近に考えられるのではないかと思う。フィールドワークを通して徳島に住む外国人について調査し、より外国人への理解を深めていきたい。

私は、国際教養コースに進みたい。世の中はグローバル化が進んでいると言われているが、実際に生活をしている中で、身近に感じる機会がないと思っていた。しかし、今日のプレゼンを聞いて、移民が増えていること、食に関して国産、外国産が存在していること、衣服に関しても国産、外国産が存在していることに気づいた。グローバル化は身近なところで進んでいるのだ。気づいていないだけなのだ。今後もグローバル化が進んでいく。グローバルな人間が求められる社会において、進んでいるグローバル化について知っておくことは欠かせないことだ。

また、少子高齢化が進む現代において、移民の存在は地方地域にとっては、欠かせないものになっていく。徳島県にはどこの国からの移民が多く住んでいるのか、またなぜ徳島に来たのか、徳島のいいところはどこかを移民の人々に聞き、海外の人が感じる徳島の良さを知りたい。それは、県外から来る人々も同じように感じるはずだ。これも、徳島県の良さを広げていくためには、知ることが大前提だ。まずは自らが知り、良さを伝えていきたい。そうすることで、地域活性にも繋がる。特に徳島県で進んでいるグローバル化について調査して、地域活性に繋がるように学んでいきたい。以上が私が希望する理由だ。

今政府や日本経済研究センターは年間 20 万人もの移民の受け入れを目標としている。これは少子高齢化が進む日本の社会には必要なことだと考えられる。高齢者増加によって介護の現場では人手不足が叫ばれるだろうし、社会保障の負担量が各一人に重くのしかかる。移民を受け入れることで上記の課題の改善が見込まれる。しかし、移民の受け入れに対して反対の声も上がっている。移民が増えることで国内の治安の悪化、日本人の雇用が少なくなることが危惧されている。また、日本は島国であるため自分と異なる文化や慣習を持つ人に対して理解する機会が欧米諸国と比べ少ない。移民に対して差別をしてしまう可能性もある。移民を受け入れるためには、法整備や社会体制を整えることが必要になる。地方自治体は体制を整えているのだろうか。地方自治体のほうが都市部よりも少子高齢化が深刻であるのに移民のこととなるとどこか遠い存在だと感じるのではないか。例えば、徳

島県のホームページでは日本語の他に中国語、韓国語、英語に翻訳出来るようになっていた。しかし、この翻訳は機械によってなされたものであり、正確さに欠ける。また、この3つの言語以外を母国語とする人々に対しては全く配慮されていない。他の地方自治体もほぼ同様であったが、一部は日本語に振り仮名をつけただけのものもあった。近い将来移民に頼る可能性が十分高いのに地方自治体の体制が追い付いていない。この問題を考えるためには樋口先生の授業が必要だと考えた。また、食や衣服は私たちの生活に密に関係しているにも関わらず、生産者のことについて無知である。私たちが安さを求めて消費活動している背景には低賃金・長時間労働で働く途上国の人々の存在がある。両者にとってより良い暮らしにするためにはどうすればいいのか。それについても考えていきたい。

身近にあるものを私たちは普段何も疑問を持つことなく使ってきたが、こんなに身近にもグローバル化が進んでいることを知り、このことについてもっと知りたいと思ったから。

私が樋口先生のクラスを第一希望にした理由は大きく分けて二つある。

第一の理由としては、私は樋口先生の授業である「社会学の基礎」を受講しており、その授業で学んだことが課題発見ゼミナールにも活かせることが魅力的だったからだ。「社会学の基礎」の授業を受けなければ、おそらく「社会学」という学問分野を知ることさえなく、ましてや興味を持つこともなかつただろう。それゆえ、私が社会学に興味を持つきっかけになった授業を担当しておられる樋口先生のクラスで、授業内容をさらに発展させた内容や、あるいは現地取材等の実践的な学習をしたい。

第二の理由は、授業で扱う内容に興味があったからだ。「最近グローバル化が急速に進んでいる」という話は誰でも聞いたことがあることだが、徳島という地方でもそのことを見て取れる場面はそれほど多くはないはずだ。そこに社会学的な立場からスポットを当て、私たちの身近にあるグローバル化を考察していく、そんな授業をぜひ受けてみたい。

私は、二年生で国際教養コースに進みたいと考えていて、元々国際関係に興味を持っていたので樋口先生のクラスを希望した。留学をしたいと考えているので、そのためには行く国のことについてよく知らなければならない。そのために、グローバルな観点を持つことは大切である。もし、この授業を受けられることになったら、留学だけでなくこれからどんどん進んでいこうグローバル化に対応するための、知識を学びたい。

グローバル化が進む現代で世界に全く目を向けずに生活するのではなく、少しでも世界のことを考えた生活をしたかったからこのゼミを希望した。このゼミでは世界のどの国の人々が作ったモノが日本に来ているのか、また、移民が住みやすい街にするには私たちは何を变えていけばいいのかの知識を身に付けることができると思う。移民が住みやすい街になればその町はもっと豊かになり、地域発展にも繋がる。メディアでもよく耳にするグローバル化を知らないまま社会に出たくない私は考えているのでこの機会に身近なところからグローバル化を知っていききたい。

私は、世界各国の食文化とそれに付随する文化に興味を持っており、今回の樋口教授のクラスで異文化がどのように既存の文化に影響を与えているのかを学ぶことを通じて、さらに自分の興味を持っている学問を深く学びたいと考えています。

また食文化史は深く人間の生活に根差した文化史だと私は考えており、その食文化が、社会の変容に対してどのように影響を受けてきたのかを研究することによって、これからの社会の変化をどのように受け入れ、我々は生活していくのかを考察することが出来ます。その研究によって、異文化と既存の文化との軋轢を軽減したり、どのように残していくべき文化を保存すべきなのかを推察することが出来るのではないかと考えています。

今世界中がグローバル化しているが、自分が生活している中であまりそれを感じることはないと思い、この樋口先生の講義を受けることで、自分の住んでいる地域や県単位でどうグローバル化しているのか知りたいと思ったことと、グローバルな視点を持ちたいと思ったからである。

近年、グローバル化が進んでいるとは聞いても、自分の身近なところで考えたことはなかったが、徳島県だけで2016年末に5203人も外国から移民した人がいることに驚いた。外国からの移民が、どうして徳島を選び、そして徳島でどのような生活をしているのかを知ることで、実際にグローバル化する徳島を実感してみたい。そうすることで、外国人をも含めた地域創生が考えられるようになりたい。

また、食や衣服などのずっと身近にあるものからグローバル化を考え、自分は意識しないうちに世界中と関わって生活していることを知り、そういう視点を持ち、考えていける能力を身に付けたい。

樋口先生のテーマは「地域のグローバル化」でした。大学の社会的・公共的機能として、「思考の多様化」という面があると思います。高校までの勉強で基礎知識をつけると、大学からはその知識を生かして自分の意見を発することができます。しかし外国に行く経験は今までなかったので、グローバル的な視点はまだ考えられないなと思っていましたが、樋口先生は「グローバル化は徳島市内で十分感じられる」とおっしゃり、例を聞くとそのとおりで大変納得できました。今回のような活動がないとなかなか自分で外国人に話を聞いたり調査したりする機会もないと思ったので、樋口先生のクラスを希望します。

地方からグローバル化を考えるとといった視点で今まで見たことがなかったので新鮮に感じたから。徳島の国際的な新しい可能性を見つけられると思ったから。

地域で進んでいるグローバル化について知り、考えることをこの授業ならできると思ったから。事前予習でしっかりと知識を入れた上で、フィールドワークに行って体験する。そうすることで実際に身近なところでグローバル化は進行、浸透しているんだと気づくことができる。その上でより深く地元を知り、また、自分の知らなかった徳島を発見することができ、さらなる好奇心もかきたてられる。是非ともこの授業を受けてみたい。

グローバル化は現代の問題として見逃してはいけない題であるから。また、グローバル化によって海外からもたらされた食が多くなっている。例えば、ファーストフードである。日本食よりも手軽で安く手に入れることができる。しかし、健康面を考えると、ファーストフードばかり食べてはいられない。日本食は健康にも良いし、日本の伝統として守っていく必要があるため、食のグローバル化は現代を生きる私たちにとって学ぶことが必要があり、知識を身につけることで、海外の食と日本の食、共にうまく付き合っていかなければならないから。そして、食のグローバル化だけではなく、様々な面から考えていく必要

があるから。

そして、身近に起こっているグローバル化を徳島県でも見つけていって、グローバル化を自分の肌で実感することも必要だから。

このような理由から、身近なグローバル化を考えることができる授業を受けてみたいと思い、この授業を選んだ。期待することは、身近なグローバル化を実際に感じることができること。

もともと徳島大学の地域創生コースに入ろうと考えていたため、地域創生コースの先生のゼミを受けたい。また、身近なグローバル化という題材で、私は現在カンボジア日本友好学園の人たちと共同で支援活動などもやっているため、グローバルに対して興味があり、同時にグローバル化する社会の中で自分自身がどのような役割を担うことができるのかということを考えていた。樋口先生のこの授業を受け、自分たちの身近に起こっているグローバル化がどのようなものであり、どのような課題があり、私たちはどう解決することができるかということを考えていきたい。

徳島の移民、衣服、食についての学びを通して徳島の魅力について深く学びたいから。私は将来、徳島で公務員になることを目指しているのでこの講義を通して徳島に住む人たちの生活についてもっと理解を深めたいと思っている。

樋口先生のスライドが一番興味をひかれた。もともと、徳島に来た人は何しに来たのだろうか、ということ調べてみたかったので、このゼミでそれを調べたいと思った。徳島大学という地元の国立大学にいる以上、徳島とグローバル化をつなげて研究したいと思う。その研究がこのゼミでできると期待している。

現在世界ではグローバル化が進んでいる。日本も先進国のうちのひとつとしてこの動きに順応、または世界のリーダーであるべく様々な取り組みを行っている。そして、これからの社会でトップにたつのが私たちの世代である。しかし徳島にいとグローバル化しているという実感があまりわからない。今や中央集権ではなくなり、東京や大阪といった主要都市

だけでなく、地方もふくめた日本全体がもっとグローバル化に取り組むべきである。かつての発展途上国が活躍してきているなかで、旧時代のままでは日本がトップに居続けることは難しい。グローバル化に乗り遅れないためにはまず現状を知り、問題を発見し何をどうして行くべきか考え、徳島大学生も早々に取り組んで行くべきである。また社会でもグローバル化に対応できる人材が求められている。どんどん増えていく移民就労者とも競って行かなければならない。樋口先生の授業はまさにこういった動きの第1歩として必要であるから、私は先生の授業を選んだ。

私は異文化やグローバル化について興味がある。また、私は生まれ育った徳島が好きで徳島大学に進学した。特に身近な、徳島で起きているグローバル化について知りたい。このゼミでは衣服や食なども扱い、幅広いジャンルから、実際に起きているグローバル化について学べる。衣服や食は私たちにはなくてはならないものであるのに、私たちはそれがどこから来ているか、どんな人が作っているか知らない。このゼミを通して、そんなところも見えてくるのではないかと思った。

私は将来、徳島でたくさんの外国人と接し、グローバル化を進めていけるような職に就きたいと考えている。そのためには、このゼミを選択することが最適だと思う。

私は将来公務員になろうと考えている。そのためには徳島の現状をよく知らなければならない。また、徳島の発展を考える上ではグローバル化について理解し考えることは、必要不可欠である。なぜなら、現在徳島の人口は減少傾向にあり移民を受け入れることが必要だからだ。だから、移民について考え、現状を知りグローバル化を理解することで徳島の活性化を考える糧にしたい。

私が樋口先生のクラスを希望する理由は二つある。

ひとつは、アパレルの流通に興味があるからである。授業概要の説明の中で、「衣類の生産はGDPが高い国でも低い国でも行われている」ということを聞いて、そのような巨大な市場を持つアパレルがどのような経済のかたちを作っているのかを学びたくなったからだ。もうひとつは、身近なグローバル化について樋口先生の元で学ぶことにより、私たちの消費行動がグローバル化に与える影響を学び、私たちの行動から社会の課題を解決する方法を考えられると思ったからだ。大学には、社会のなかでの課題を発見し、それを解決する

方法を提示する機能がある。私は、自分たちの消費行動による経済的な影響と人同士の人間関係などの及ぼす作用などの関係を調べたい。樋口先生は移民の研究を専門とされており、そこからわかった人間関係と経済の関係との話も聞けると考えたからだ。樋口先生の授業で扱った「弱い紐帯・強い紐帯」の話も絡めて、自分の学びにつなげたいと考える。

私が樋口先生のクラスを希望する理由は、グローバルな視点で徳島の活性化を考えたいと思ったからだ。現代社会では、地方創生を進めていく中でもグローバルな視点は必要不可欠である。例えば徳島には、独特の日本らしさを持つ自然や日本古来の伝統芸能に触れるため、様々な国から訪れた外国人観光客が多くつめかけている。このように、地方にはそこでしか味わえない魅力が存在し、そういった観光資源を生かしたビジネスを考えるには、グローバルな視点がなければ成功しえない。しかし、自分にはそういったワイドな視野が不足しており、学ぶ必要がある。そこで、樋口先生のクラスで行われるフィールドワークを通して、実際に身をもって体験することで、リアルにグローバルな感覚を養うことができるのではないかと考えた。私たちの身近な生活の中で起こっている何気ない出来事を、グローバルな考え方をを用いて、マクロで多面的に捉えることができるようになりたい。

現代ではグローバル化は私たちに関係のない遠い世界の話ではなく身近なことで、この授業では食・衣服など私たちにすごく身近なテーマでグローバルについて考えることができると思ったから。また、移民については普段ほとんど考えたり、触れる機会がない。これからますますグローバル化が進み、日本に住む外国人の方も増えるので、外国人の方たちと接する機会が増える。そういった時に私たちは少しでも移民の方たちについて理解をもって接することができるように、学生の時から基礎を学んで社会に出た方が良いから。この授業に期待すること

文献などを使い、授業の中で基本的なことを知ることも大切だが、授業で学んだ上で実際に徳島に住む外国人の方たちと会話したり、インタビューやアンケートをしたりしてフィールドワークで体験すること

グローバル化を学ぶことは非常に大切なことである。なぜなら、樋口先生が述べていたように私たちはグローバル化の波に飲み込まれている。私たちがいつも食べているものの大半は外国で作られているものである。私たちは多くの人たちの協力なしでは生きていく

ことが困難な世の中に生きているので有る。だから私たちはみじかな生活と関わっているこのグローバル化について学ぶ必要がある。よって私はこの講義を選んだ。

私は後期の課題発見ゼミナールで、樋口先生のゼミを選択したいと考えている。

昨今、グローバル化という言葉をよく耳にするが、個人的にはあまりグローバル化を感じられない、と思っていた。しかし、ゼミの説明を聞くと、漠然と生活していると気がつかないだけで、身の回りではグローバル化が進んでいることが分かった。これから先、グローバル化はさらに進んでいこう。ゆえに、グローバル化について学び、より関心を持つことで、課題発見・問題解決の能力を養っていかなければならない。そのために、まずは導入として、身の回りの何気ないことからグローバル化について考えていくべきなので、このゼミを選択したい。

私がこのクラスを希望する理由は、食や衣服についてのグローバルを考えたことがなく、身近なグローバルについて知りたいと思ったからだ。徳島県で外国人を見かけたり、外国の料理のお店を見たりしたことはあった。だが、スーパーで外国産の食品を見たり、中国産やベトナム産の衣服を見たりしても、実際にそれらを作っている人を見たことがなく、グローバルだと実感することがなかった。スーパーで野菜や魚、肉を購入するとき、どこで作られたり、捕られたりしたものかをあまり気にしていなかった。普段着ている服がどこで作られたか確認することもあまりなかった。また、日本製の服であっても、日本で外国人が作っているものであるとは知らなかった。このクラスで、身近なグローバルを自分で発見したり、詳しく調べたりしていきたいなと思った。そして、普段から身近なものがどこで作られ、誰が作ったのかを確認していきたい。

私は、世界の色々な国に興味があり、近年進んでいるグローバル化について学びたいと思い、希望しました。また、フィールドワークを行い、実際に見たり聞いたり調べたりすることで、より理解が深められると思ったからです。

グローバル化という言葉が一般に浸透しているが、そもそもグローバル化とはどういう

ことなのか。英語の需要が高まってきたこと、世界の様々な国に行きやすくなったこと、同じ国に多様な人種が入り乱れていることなど、十分な学習をしていない自分には漠然とした答えしか出すことができない。徳島でもグローバル化が進んでいることを実感することが学習目標ということで、半年間 3 つのテーマに沿って多面的にグローバル化について学びたいと考えている。

樋口教授のクラスではグローバル化について扱う。近年グローバル化という言葉はよく耳にする。大学は人材を育てる場であるとキャリアプラン入門で学んだ。これからの時代はグローバル化に対応できる人材を育てる必要があり、グローバル化について学ぶ樋口教授の授業を志望する。

私は、将来も地元・徳島に就職するつもりでいるので、グローバル化というものは、関係がないのだと思っていました。しかし、樋口教授のクラス説明を聞いて徳島にいてもグローバル化は関係のないものではなく、意識しなければならないのだと知りました。なので、聞く前までは、グローバル化は東京や大阪などの都会で起こっているものであり、徳島のような地方では起こっていないのだと思っていましたが、服や食材などが世界から輸出・輸入が行われている範囲がどんどん広がっていき地方にいても必ず、接しておりそれ失くしては、私たちは生きてはいけないという状況まで陥っているので、決して関係のないものではないのだと思いました。さらにこのクラスでは、机の座っての授業だけではなく、実際に外に出て現場の声を聞いたり体験することができるので、グローバル化が徳島でも起こっていることを実感できます。

そして、大学の社会的機能は「課題を発見し、解決する能力を身につけること」です。将来社会に出たときに、求められる能力です。このクラスでは上でも書いたように実際に現場に足を運ぶことができます。そこでは現場の良いところだけではなく、課題となる部分も見えてきます。その課題をただ、見つけるだけではなくどうすれば、良い方向へと持っていくことができるかを考えることが重要です。この二つのステップができることもこのクラスを取りたい理由です。

身近なグローバル化を取り扱うということで選んだ。なぜかという、身近なものほど、当たり前になってしまい、気づかないことが多いからだ。このクラスで自分が学んだこと

を他人に伝え、ごみ問題や自然破壊といったような大きくて世界的な問題の改善、解決策を考えていくようなことができればいいと思った。

グローバル化とは国際的だという意味でなんとなく遠くで起こっていることかのように思っていたのですが、資料を見て徳島でもそれが起こっているのを実感できるというのに興味を持ちこのゼミを志望しました。私はこれまでずっと徳島に住んでいましたが新町川沿いにフィリピンカフェがあるというのは知りませんでしたし、自分の普段食べている料理の食材や着ている服が誰がつくり、どこから来ているのかは考えたこともなかったのでゼミでは自分の身近なものやことからグローバル化を発見していきたいです。

今回の授業で樋口先生の「身近なグローバル化」というフレーズが気になった。今まで、私は「グローバル化」と聞くとどうしても世界に焦点を当ててしまっていた。しかし、もっと狭い範囲や私の身近なところにもグローバル化があるということを知ったので、私たちの身の回りにあるグローバル化について知りたい。また、移民の人が開く店を実際に尋ねてみて話を聞いたり、食べ物や衣服はだれがどこでどのように作っているのかを学んだりしたい。

徳島大学は海外からの留学生を多く招き入れており、私たちが留学できる機会もたくさん提供してくれている。そして高校までとは違い、世界の文化を学ぶことができる授業も多くある。世界の文化を学びながら、自国の文化を学んだり、私たちの身の回りに紛れている外国の文化について学んだりできる。このように大学もグローバル化に積極的である。そしてこれから、世界はさらにグローバル化の時代になり、一層グローバル化が進んでいくと予想できる。身近なところで起こっているグローバル化を知ることがさらに大切になってくる。

このようなことから私は、徳島県にあるグローバル化の事例を学ぶことや、実際にフィールドワークをすることで私たち徳島県のグローバル化がどのように進んでいるのかを知れることを期待している。またそれとは反対に、私たちの身の回りにある日本の文化が海外にはどのように存在しているのか、日本を離れ外国で日本文化に関する店を開いている日本人についても学んでみたい。

私は、樋口先生のクラスで課題発見ゼミナールに取り組みたい。その理由は2つある。

1つ目の理由は、この授業はフィールドワークに繰り出したり、ドキュメンタリーを見たりするといった、社会を学ぶ活動に重きを置いていることである。大学は学生にとって最後のモラトリアムを提供する場所であり、学生にその限られた時間を自ら有効に使うように促すものである。言い換えると、私たち学生は在学中に社会に出る準備をしなければならない。例えば、自分たちを取り巻く社会を知る、コミュニケーション能力を高める、問題発見とその解決の能力を身に付けることが必要だ。私はこのフィールドワークを、いままで生活してきた校内とその周辺の限られた環境から一歩進み、広く社会を学ぶきっかけにしたい。

2つ目の理由は、この活動がグローバル化を扱うということである。日本は急速にグローバル化が進行し、最早日本を世界と切り離して考えることができないことは周知の事実である。樋口先生は、徳島で進行するグローバル化について、移民、食、衣服の3つの観点から探究することを活動の趣旨にされた。その理由を私は以下のように推察する。グローバル化をテーマにしたこの活動は、「大学の社会的、公共的機能」を果たすものだからだ。その内容は、学問研究、教育、地域貢献の3つに分けられる。

まず、学問研究に関することは、県内に移民がやってくる経緯や県内の移民の生活と経済活動の様子を調査することである。これらは、移民研究の専門家や、移民の経済活動に重きを置く経済学者、又は彼らと似た研究がしたい学生の学問的な興味関心をひく題材である。移民研究を専門とする樋口先生ご本人が自らテーマに選ばれたことからそれが伺える。

次に、教育に関することは、学生に移民問題という社会問題について考えてさせることである。移民問題の例は、移民が移住先の土地の人や価値観に馴染めず、辛い思いをすることや、研修生の名目で、最低賃金法や労働基準法を無視して働かせることなどが挙げられる。先述したように、これらは社会勉強やグループワークの題材に適しており、私たち学生は問題発見、解決の能力を鍛えることができるだろう。

最後の地域貢献は、大学教員や学生が研究したことを社会に還元することで達成される。例えば、大学の活動で分かった、移民が徳島県にきた経緯や、移民の生活、さらには、調査で突き止めた移民を取り巻く問題を大学とつながりのある行政当局に報告することで、行政側が移民のことをさらに理解し、移民に対する行政の質を高めることが期待できる。以上の点から、樋口先生の授業は学生の社会活動や社会で必要とされる能力を高めるとともに、大学の社会的、公共的機能を発揮することにつながるため、大変有意義なものである。

私が樋口先生のゼミに入りたい理由は、ずばり一言で言うと、グローバル化について、経験をもって、もっと知りたいと思うからです。

現在の私が描く自分の将来像は、徳島のまちづくり、観光、徳島 PR などの地域創生に関わることで、徳島の魅力を多くの県内、県外の方に感じてもらうことです。この目標は抽象的で、具体的な策は、これからの私の行動、経験の積み具合次第なのかなと思っています。

現在、日本では、少子高齢化が進むとともに、世界のグローバル化の影響を受け、日本でも外国人の数が増えています。徳島の地域創生では、その課題として、「過疎化」がよく挙げられる言葉ですが、その解決は、徳島県外の人々を集めるだけではなく、昔以上に外国の方にも注目をもってもらうことが必要ではないかと考えます。そのためには、世界の他国のこと、世界と日本、日本の地域と世界について知っておくこと、考えることは不可欠です。このことは、地方のまちづくり分野に限らず、他の分野にも同じことが言えるでしょう。

そう考えていたとき、心にピンときたのが、先生方の説明の中で、樋口先生の問いかけでした。我々が毎日口にするもの、来ている服が、誰が、どこで生産しているものなのか、製造過程で働く外国人の存在を考えているか。先生が言葉にされて、やっと私の意識にそれらが立ち上がってきましたが、これまで生活していた中で、私は身近に潜んでいた「グローバル化」の存在をあまりにも何も考えず過ごしてきたことを思い知らされました。「グローバル化」という言葉自体が私の中で抽象的で、私は口先だけで今まで唱えていたのです。この「グローバル化」を知ることは、現在の状況を知ることです。現在の状況を知り、把握することは、現在の状況に対し、自分の中に多角的な見方を増やすことではないでしょうか。こうした、グローバルなもの見方は、徳島のまちづくり、そこに关わる他の分野の学問にアプローチするときに生きることです。先生の、地域社会・暮らしとグローバル化をテーマとしたゼミは、これから地域社会について考えるときに力になる、良い経験ができる場だと思いました。

樋口先生のゼミは、徳島の地域にも関わり、かつ身近に潜むグローバル化を掘り起こし、自分の中に真の現状理解と、多角的な視点を持つことができるものだと期待しています。これらの根拠、大きな期待から、樋口先生のゼミを第1希望に決めました。

選んだ理由は、グローバル化する現代のことをもっと考えたいと思ったからだ。日常からグローバル化のことを今まで意識していなかったもので、これをきっかけにグローバル化のことを知りたい。徳島に住んでいる外国の人たちとのつながりも、調べたい。ただ食べるだけでなく、それがどこで作られているのかを知りたい。日本で売っている服でも、作っているのは外国の人たちというものも多いので調べてみたい。グローバル化の今、買う・売る・作るが違っていることが多々ある。だからこそ、外国との繋がりを知るべきなのだ。

私が樋口先生のクラスを希望する理由は、グローバル化した地域社会をフィールドワークを通して学ぶことができるからである。

私は現在樋口先生が開講していらっしゃる、社会学の基礎という授業をとっているが、その授業が非常に有意義で、今までの自分とは違った観点から物事を見ることができたり知らなかった事を大いに学ぶことができるので、是非また樋口先生の授業を受講したいと考えていた。

また、授業で行われるフィールドワークには講義とまた別の良さがあり、その土地の現状や声を肌で感じ、自分の視野を更に広げることができる。

そして、現在少子化の影響でになっている移民問題について学習したり、グローバル化する食や衣服の問題を様々な観点から深く思考する学びは、国際教養にも地域創生にも繋がる。

私は現時点で国際教養コースと地域創生コースを志望するため、両者に通ずるこの授業は私にとって欠かせないものである。

少子化やグローバル化など様々な問題がある中で、社会を担っていくのは私たちである。これらの問題に対応できる人間になるためには、この授業を受講し、私がまだ知らない多くの事を学んでいく必要がある。

僕は世界の民族や食文化がなぜこうもそれぞれ異なるのかということに以前から興味を抱いていたため、樋口先生の研究分野である移民の受け入れという観点からそれぞれの大陸、地域の民族の食文化、衣服、性格などを知って行きたいと感じたため。また、なぜその土地に住み着くことになったのかを調査していくことにより、世界が急速にグローバル化する理由がわかると思う。

総合科学部の教育理念として、大学では「グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解すること」が挙げられています。近年世界では、IS 問題に北朝鮮問題、日米安保問題など、ますます各国の互いの動きが重要視されつつある社会問題が大量に流布されています。所謂グローバル化を無くしては、世界の均衡が崩れ得ない状態になることが懸念されているということです。世界各国の人間一人一人が、合理的に、理性的な対話を行うことで諸問題を解決していく能力が求められているということなのです。

グローバル化を考える際、まずは「海外」に視点を置いて、文化や社会の理解、つまり

は異文化・他者理解を養う必要があるわけですが、海外へのフィールドワークよりも先に、我々大学生は「移民」、つまり「留学生」と関わる機会が現れます。そこで考え出すことは「なぜ彼らは日本のこの場所に来たのか」ということです。都市部に関わらず、田舎地帯にも移民は何らかの理由を持って移住してきています。それは商業目的であったり、語学留学のためであったりします。「移民」は、日本に住む我々にとって最もグローバルなテーマであり、大学生の機会を与えられている我々からすると、「留学生」との交流がグローバル化に迫る最も身近なテーマであるのです。もちろん、地域の移民らと積極的に関わるためには、地域のフィールドワークにも洒落こむ必要はあります。身近なグローバル化を捉えることは、世界中に広がるグローバル化の在り方を理解する基礎付けになります。よって、私は身近なグローバル化について研究する樋口先生のゼミ選択を希望します。

更にこのゼミでは、物事の多面的理解の基本となる文献調査や統計理解にも力が注がれています。十分な文献調査は、様々な文献の比較検討から合理的な判断でレポートを執筆できる力になります。加えて統計理解は、客観的に見える一種の統計データに隠された真実を発見する力をつけることができます。データの著しい変化は、なぜ起こったのか。そのような「データを正確に読み取る力」も、論文を記すうえで重要となるスキルです。

商品の輸入・輸出は現代のグローバル化した社会においてかけがえのないシステムです。特に食・衣類については輸入に頼る日本ですが、その食文化や衣類がグローバル化されている真実を、身近なものとして認識する必要があるが我々にはあります。我々が絶対に一日も欠けてはならない食と衣の文化は、移民よりも身近なグローバル化と言えます。この食材はどの国から来たのか、この素材の原産国はどこか、それらを理解しなければ世界中がグローバル化されている真実に気づくことは不可能です。グローバル人材と呼ばれる者が現代社会において欲せられているからこそ、これらの課題について検討する必要があるのです。